

～卒寮生の保護者が語る大阪学生会館の魅力～

「大きな安心感の中で娘が成長した寮での4年間」

令和7年3月卒寮生の父

大阪の大学への進学が決まり、一人暮らしを辛抱して寮での生活を決めた4年前。その頃はコロナ禍の真っ只中。大学の授業はリモートで行われ、思い描いていた憧れの大学生活、都会生活は制限されました。

初めての親元を離れての生活への不安もあったことと思います。

しかし、様々な夢をもつ同郷の仲間がいつも近くにいることに大きな安心感を得たようで、4年間を通して週末のライン電話では、笑顔で近況を伝えてくれました。また温かい食事やお風呂、必要な家電なども整えられ、快適に過ごせたようです。何より親が安心でき、大阪の地と娘の存在がいつも近くに感じられました。

島根での就職が決まり、娘を迎えに行きました。笑顔で見送ってくださる寮の皆さんや建物をじっと見つめる娘は、どんなことを考えていたんだろう。親としても感謝の気持ちでいっぱいです。

4月から、職場の皆さんに温かく教え導いてもらいながら頼もしく働いています。寮での人とのかかわりや生活経験が活かされているに違いありません。

今年は大阪で万博が開催され、もう1年早かったらと、それだけが心残りのようです。

大阪から島根へ。「関西万博」から「ばけばけ」へ。島根のよさを再発見しています。島根の魅力を発信するキーワード「誰もが、誰かの、たからもの」。人のつながり、あたたかさを感じながら、「自分が島根のたからもの」になることをめざして、今日も娘は前へ走り続けています。